

益子駅と並ぶ町の玄関口 道の駅ましこ



▲屋根が町の里山を象徴

建物正面の郵便ポスト

「関東の駅 100 選」に選出された真岡鐵道・益子駅と並ぶ町の玄関口というべき施設が、県道 41 号沿いの「道の駅ましこ」です。県内 24 番目の道の駅としてオープンしたこの道の駅は、2016 年 10 月の開業から 8 カ月で来場者が 50 万人に到達し、想定（開業 1 年間の来場者 30 万人）を大きく上回る大盛況となりました。

その魅了の第一は、外観です。建物は町の「山と土」をモチーフとしており、梁に八溝杉を使った大屋根は八重に連なる益子の山々を表現し、土壁は益子焼にも使われる黄土を使用しています。町の温故知新を反映し、建物の正面には昔懐かしい赤い郵便ポストが設置されました。内部では、益子焼を始めとする県内の伝統工芸の作品や地元の農産物を販売する「ましこのマルシェ」、その日の美味しい野菜が食べられるレストラン「ましこのごはん」、町を訪ねた人に観光情報を提供する「ましこのコンシェルジュ」が設置されています。

2018 年には日本建築大賞（2017 年度大賞）やグッドデザイン賞を受賞するなど、各方面から高く評価されています。

県南東部の益子町は、益子焼で知られた焼き物の里。益子焼が焼かれるようになったのは江戸時代ですが、町の一部は暮らしやすい地域として古くから生活の場となってきました。町内に残る人の営みの跡は縄文・弥生時代にまでさかのぼり、数々の古墳や奈良時代創建の古刹・西明寺など、国や県の文化財に指定された歴史的名所・遺物も数多く存在します。また大正時代以降は、人間国宝に認定された陶芸家・故濱田庄司氏の活動などにより益子焼の芸術性が高く評価され、さらに多くの人が町を訪れるようになりました。

現在、町では花に包まれた美しい町づくりを目指して「ましこ花のまちづくり事業」を展開、ひまわり祭り・コスモス祭りの開催や花いっぱい運動の推進、フラワーボランティアの奨励などを行っています。さらに地域で愛され、将来に守り伝えたい風土・風景・風習・食文化などを「世間遺産」に認定し、町内外にその魅力を発信する「ましこ世間遺産」（現在は 46 件が認定）を推進するなど、町の魅力の整備・アピールを進めています。

個性豊かな県内の各市町をご紹介します。今回は、益子町をご紹介します。

益子町

～益子焼で知られる「手づくりのまち」

陶芸メッセ・益子には故濱田庄司氏の登り窯が復元

益子町の 見どころ

濱田庄司記念益子参考館

濱田庄司が、自身が蒐集した工芸品を広く一般の人にも参考にしてほしいとの意図で公開・展示している美術館。氏の作品や工房、窯なども見学できます。



●益子陶芸美術館 (陶芸メッセ・益子)

濱田庄司や島岡達三などの国内外の陶芸家の作品を展示、益子焼の魅力を紹介する美術館。敷地内には濱田邸が移築され、同氏愛用の登り窯も復元されています。



▲移築された旧濱田邸

●益子焼窯元共販センター

日本一大きな狸で有名な、益子焼等の販売施設。日用的な食器から著名な作家の作品まで豊富な品揃えを誇ります。陶芸教室にも参加できます。



●小宅（おやけ）古墳群

小貝川支流の小宅川右岸の丘陵地に造られた、6～7世紀の築造と推定される前方後円墳6基・円墳29基からなる大規模な古墳群です（うちの17基が県指定文化財）。現在は桜の名所としても有名です。



●円通寺

1402年の創建と伝えられる古刹で、国の重要文化財に指定された表門のほか、県指定の文化財の一切経塔、銅造阿彌陀如来立像・両脇侍などがある名です。



▲本堂

▲表門

●西明寺

天平年間（729～749年）の開山とされる古刹で、1538年に建立され、関東甲信越四大古塔の一つに数えられる三重塔や楼門、本堂内の厨子が国の重要文化財に指定されています。



▲楼門

◀銅板葺きの屋根が珍しい三重塔

●地藏院

境内の天然記念物の糸ヒバや樹齢500年余の菩提樹が有名な古刹。本堂は国の重要文化財に指定されています。



●網神社・大倉神社

網神社は鎌倉時代初期、大倉神社は807年の創建と伝えられます。美しい曲線の茅葺き屋根を持ち室町時代後期の建築と見られる本殿や、摂社である大倉神社の本殿が国の重要文化財に指定されています。また11月の例大祭で奉納される「網神社太々神楽」も有名です。



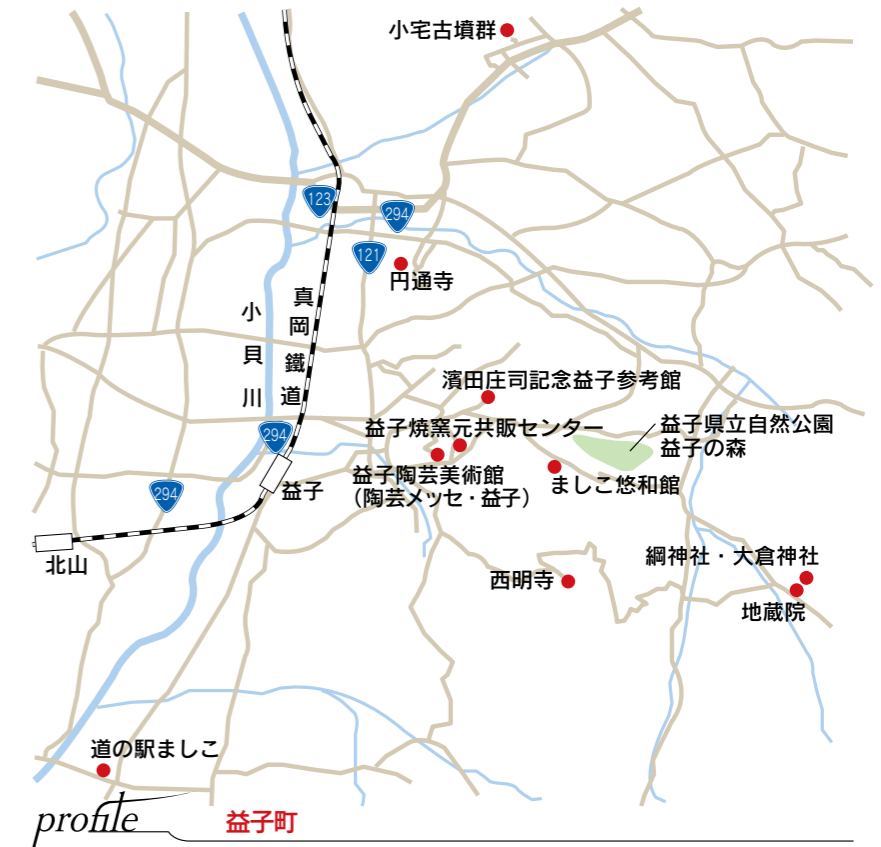
▲本殿



▲大倉神社本殿

NEWS ましこ悠和館

皇太子時代の上皇陛下が学童疎開時に滞在された奥日光・湯ノ湖畔の旧「南間ホテル」の建物が改修され、昨年6月に「ましこ悠和館」として公開されました。この建物は昭和48年に益子町に移築されており、平成28年に町へと寄贈され、再建されたものです。今回は県と皇室との関係をパネル展示する「平和のギャラリー」や、終戦の玉音放送を聞かれた「御座所」が一般公開され、御座所では玉音放送の音声を全文聞くことができます。



profile 益子町

明治28年に設置された益子町は昭和29年6月に七井村・田野村と合併し、現在の益子町が誕生しました。面積の大部分は、町を南北に縦貫する小貝川両岸の平野で占められており、米麦やいちご、その他工芸作物などの豊かな農業が営まれています。また益子焼は、工芸品としての需要以外に観光の面でも大きな力になっており、町の産業に貢献しています。

▶面積：89.40 平方 km ▶人口：22,080 人（7,894 世帯）

〔令和元年12月1日現在〕